

78歳の御誕生日を祝寿して 誕生奉告祭並祝賀式典



大和の光

7月号

《発行所》

大和教団
仙台市青葉区錦町2-4-24
大和教団本庁
電話 代 022-261-2525番
振替 仙台 02220-3-45512
発行人 大和教団 定価50円



神紋
八咫鏡と太陽を
かたどったもの
で、国家の隆昌
と世界の共存共
栄を意味してお
ります。

霊言
いかに厳しい世の中であつた
としても、自分の心が豊か
あつたならば、
これほど幸せなことはない。
(大和神典第三之〇〇一言)

水無月となった。この月には教主誕生祭、大宇大宙の天地一切清浄大神業の祓禊祭(みそぎまつり)が斎行される。未だコロナ禍にて存分なる教化活動はままならぬも、心ある信者の皆での斎行となるを有り難きと思わずにはおられない。本年は三年ぶりに綿津見大神の神威を拝す大海原での御海水(おみず)取りの神事が執行された。嗣親外教師、信者さんの奉仕にて執り行われた。午前一時の神社出立にて七ヶ浜町小豆浜にて雨もよみの中行われたようだ。神明奉仕する皆の熱き心が、天地の神々と感合し稜威漲る御海水をお汲み取りされたものと信念するものである。午前四時半頃に無事帰山されたと漏れ聞くものである。この尊い綿津見大神の御海水のお旗ちをもつて、開運の道開きの一端とさせて頂きたいと念ずる次第である。奉仕の皆さんには心よりの感謝を申し上げるものである。

十二日には教主七十八歳の誕生祭並式典が開祭された。祝賀会は慎しみて直会膳はお持ち帰りとして頂いた。顧問の相澤光哉先生、相談役の佐々木幸士先生、菊地崇良先生にも参列を頂きご挨拶を頂いた。先生方の含蓄のあるお話しに心を震わされた。式典の中で大國神社創社四十五周年記念事業奉賛の記念品を百三十余名の代表として、田村大國講長の吉田来氏に贈呈された。著名な神道画家の平沢定人画伯が本教に献呈されし大國主大神、少彦名大神の御神影の写しを額装させて頂いた。結びに大和歌劇団座長田中道敏教師外の男性教師等のお祝いのパフォー

マンズに会場参列者の皆さんも笑顔と和みの境に導かれたようだ。喜びのご信者皆さんのほころぶ笑顔を心に残させて頂いた。私も皆さんの元氣を賜った。これからも皆さんから賜った元氣をもつておつとめ申し上げねばと心ずるものであった。

二十四日より祓禊大神業が執行された。第一日は御神像を初めて石造宮型の全てが、お汲み取りされし大海原の御海水と天眞名井の御神水にて、一柱一字ごとお清めされ、還幸祭が嗣親外教師によりて斎行。翌二十五日は前日祭が斎行され、幽顯の参行者の御名が大前に言上された。二十六日は教主齋主にて本祭を斎行す。炎天下のもとであつたが、心配された熱中症にかかる人もなく全



員元氣に参行された。清々しき生命の甦えりを神・人・霊と事とはかられた。教主として三界調和・大神業の大事を無事お仕えさせて頂きしに、そして参行奉仕下されし教信奉者、教職員に感謝を申し上げるものである。

私は予てより、不可解不可思議と思つてゐることがある。キリスト教イスラム教等々にありて何故に宗教同士の争いが起るのか。何故に他國のものを奪うのか。何故に殺戮するののか。殊に欧米列強国といわれる國々は領土を奪い、先住民を殺め、宗教を強制し言語まで変えてきた。それは他ならぬ他民族を滅亡させ自國のみの繁栄を図ろうとしてきた事象である。今世の中国も然り。ロシ

令和四年七月一日

教主 禮日公

アも然りであろう。キリスト教は愛を説くという。されど人間、人類愛はかくの如き指導者のどこにも見えない。俺の欲望による行為の動物的世界だけである。キリスト教の教えを何故に守れぬのか。彼の國の大統領も聖書を手に當てて誓う姿をみるが、何を誓っているのかと。自分の欲望を満たすには、人も殺してよい。領土を奪つてもよいと誓っているのだから。十五世紀の頃に、銃(火薬)と羅針盤を發明し、その力をもつて世界大航海をなし手当たり次第に奪いつつてきた。アフリカの黒人を人としては扱わず、奴隷として野生動物家畜同様の人身売買を平気で行う人等。その心にキリスト教の愛はどこにもみえない。彼等にとつては形式だけのキリスト教の信仰者なのであるかと。宗教を政治的に経済的にのみ利用するだけの人は共ではなからうかと。欲しいものは奪う、手取り早い方法で物質的豊かさを貪つてきた。ロシアもあれだけの広大な國土をもちながら、まだ奪おうと戦争を仕掛けてゐる。中国も然りである。人間の欲には限りが無い証左でもあるが。中国で起こりし儒教精神の欠片もなくなった。社会主義、共産主義の革命には何千万人の犠牲があるという。それだけの犠牲を払う革命が真に人類と人民の為なのであるか。愚かな思想に冒された一部の人間どものエゴだけである。魔界に左右されし魔物の何ものでもない私は常々思つてゐる。

人間の価値を名誉や地位、財物におくは実に精神未熟の人間と云えよう。キリストの釈迦の孔子等の昔の聖人たちの想いを汚してはならぬものと私は思ふのだが。天皇陛下を真中に賜わる私共日本国民は本当に幸せな国民であるを感じ入るばかりである。

教主様御誕生奉告祭



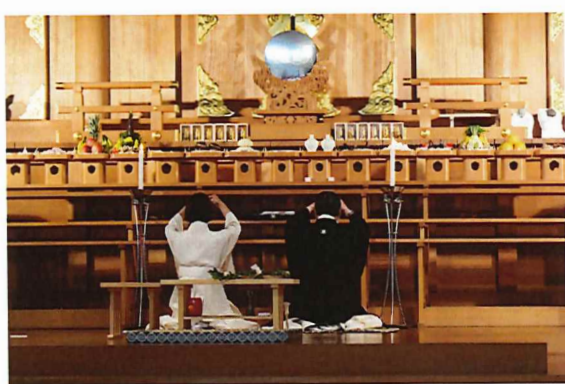
斎主嗣親様による教主様誕生奉告祭

いが盛大に執り行われた。教主様は本年六月十九日をもって数え七十八歳のお誕生日をお迎えになられた。先ず、斎主嗣親様により教主様御誕生奉告祭が斎行された。

綾瓊奉称にて神々をお称え申し上げ、教主様誕生奉告祭詞が厳かに奏上された。斎主嗣親様玉串拝礼の後、教主様、教母様、御来賓、総裁家、参列者が順に玉串拝礼を申し上げ、祭儀は申し修められた。

引き続き祝賀式典が開式された。

教主様、教母様がお揃いでご登壇なされ、嗣親様による開式の挨拶の後、大國神社創社四十五周年記念事業奉賛者記念品授与式が行われ、御本宮瑞垣御造替を始め金剛蔵王大神御神像建立御奉賛、神交神



教主様・教母様による玉串拝礼



嗣親様による開会のご挨拶

祝 教主様誕生奉告祭

立教八十年に向けて大和の御教えを天地に満たしましょう
大和の信仰で笑顔のこぼれるような家庭を築きましょう

社神庭清美に御奉賛下された方々を代表して、教主様より吉田来田村大國講議長へ記念品が授与された。



奉賛者を代表し吉田来田村大國講議長へ記念品授与



花束やお祝い品を受け取られる教主様・教母様

次に教主様、教母様へ花束の贈呈が信奉者代表、教師会代表、婦人部代表、青年部代表、総裁家の順に行われ、続いて来賓祝辞を顧問で元宮城県議会議員長である相澤光哉先生、相談役の宮城県議会議員佐々木幸士先生、同じく仙台市議会議員菊地崇良先生より頂き、祝電が披露された。結びに教主様より謝辞(別掲)を賜り、田中道敏教化部長先達の大和

教主様謝辞

本日このように強い雨の日に、皆さんにこうしてお祝いを頂き本当に嬉しく思います。有難うございます。神様と信者さんに言祝きて頂ける事は本当に有り難いことです。開祖様はいつも、「歳をとる」ということは重なるのではなく、歳を捨てていきなさい。」と言われておりまして、心は何時も青春です。若やいで若や



相談役菊地崇良先生



相談役佐々木幸士先生



顧問相澤光哉先生



教主様へエールを送る"大和応援団"



結びに参列者一同による"弥栄祈念"

い。そういう心を持つにはずっと働くことです。働けるという事こそがそれを保つ力となります。開祖様は九十六歳でご帰幽なされました。私はまだ七十八歳ですから、あと十八年も仕事が出来ます。これから大きなことも出来るだろうとワクワクしております。世の中の多くの同年代はリタイアする歳ですが、私はこれからです。開祖様の歳を超えて仕事をさせてもらう事が一番の親孝行だと思っております。

歳というものは不思議なものです。

特に日本人は昔は数え歳が当たり前でした。今は欧米の考えに倣い満年齢で数えます。四十代の人に聞いても数え年を知りません。教わる場がないから当然かも知れません。今は生まれて零歳です。母親のお腹の中で生きているにも関わらず零歳、そこから一年を経て一歳となります。私たちの先祖の考えとは全く異なります。歳を重ねるのは三六五日という日数を重ねないともえません。お金をいくら払っても一年という年は買えません。買い難きものを私たちの先祖は初めから与えて下されました。このお腹の中に十月十日生きている、命の大切さを知っていたと思います。だから生まれてきたら、あなたに歳を一つ差し上げますよ。物凄いいことだと思えました。命というものの尊さを知っておりました。喜びを知っていたのです。こういうことを子供たちや孫たちに残していくべきです。戦後、大切なものがどんどん壊されていきました。

私たち大和の信仰は宇宙法則の実践と説きます。先の大戦では我が国は大きな犠牲を払いました。しかし、そこから立ち上がりました。日本人の素晴らしい力、それは教育の力でしよう。江戸時代の寺子屋、庶民までが皆学びました。これは凄いことです。欧米人の価値観は、お金や物、財産、地位等を沢山頂く事です。しかし日本人は違います。それらを頭しているのが天皇陛下、御皇室の方々です。本当に質素な生活をなされておられます。魂が違うのです。精神が違います。今ロシアがウクライナに侵攻をしています。何のためにでしょうか。プーチンが、その取り巻きの、俺のものの、俺のものとしているからです。ロシアの国民全てがそうではありません。あれだけの領土を持つていながらも他国を欲しがるわけです。日本だって危ないのです。そこには欲だけです。宇宙法則からすればそれは違います。

如何に力があっても此処は此処です。調和ですから。自分の分というものを守るという力、それを分相応といいます。喜怒哀楽、苦しみがあります。破壊されてはなりません。何があっても国や家族がまとまるのです。



謝辞を述べられる教主様

開祖様は申されました。家が壊れるのは外から攻められるのではなく内からだと。家族の中で争うから壊れるのです。日本の国がもし、今のウクライナの様な状況になったらどうなるのでしょうか。国も自分も自分の力で守るのが当たり前なのです。それが「愛国心」です。現在はその「愛国心」の教育が悪いことのように押さえつけられています。国を愛して何が悪いのでしょうか、この国土に感謝して何が悪いのでしょうか。守って何が悪い。攻められたら守るしかないでしょう。何処かに逃げますか。そうはいきません。こうしている今でも流浪の民、国籍の無い方々が世界中には大勢おります。そこには人権も保証も何もありません。そんな人が世界中にどれだけいるのでしょうか。日本は恵まれております。天皇陛下を真中に、神々を祖霊をお祀り申します。そういう精神が

私たちの心の中にはその霊種が撒かれております。これは尊く素晴らしいことです。日本人は信じあえる国民なのです。人を見たら泥棒と思えという欧米の思想とは違います。欧米はいつ攻められるか分かります。欧米から堅固な城壁を築き守ろうとします。天皇陛下がおられました。京都の御所を思い浮かべて下さい。平坦な土地に高くもない塀で囲まれております。欧米人からすれば不思議な光景、不思議な国だと思わす。私たちがの心、精神は円熟しております。お金、物、権限だけに力を発揮している欧米人は未熟な精神です。日本人は違います。私たちは天陛下を仰ぎたいだけからこそ、今日もこうして生かされています。太陽を拝むとはそういうことです。太陽の光と熱と恵みが、天陛下の御心を頂くということです。その恵みこそが天陛下であると私は思っております。その御力をひとしおに頂いたのが開祖様です。皆さんの家庭でも太陽が必要です。ですから三代、四世代の家庭をどんどん増やさなければなりません。子供等の喧嘩も社会勉強なのです。今の学校では、やんちゃな子供しか喧嘩はしません。非常に弱くなっています。反面、堂々の喧嘩ではなく陰湿な奇めが行なわれております。卑しい心、言葉での奇めです。卑怯者です。複数で独りをいたぶる。こういう子供にしてはなりません。皆さんも子も孫も体も心も強く育てなくてはなりません。優しいだけでは、生きていきません。私は家族にいつもこう言っております。「自分で呼吸が出来なくなったら、延命措置はしないでよい。」と。命を大切にすることその方法も自然の法則に抗つては駄目なのです。この星の力、大地の力、空気、水、その環境の中で先祖が命を育んで参りました。日本はその自然の恵みでも最高の豊かな環境で

す。潤い豊かな瑞穂の国です。米をイネと申します。イノチのネで力強い生命力を持つており、それを私たちが頂きます。その稲を神様がお与え下さいました。収穫まで半年間、田には水があり、その中で生き物も生きております。循環しています。私たちも大自然の中のこの宇宙の中の生き物です。大和の教えは祈りと感謝と奉仕の生活と説きました。何のために祈るのでしょうか。天地の恩恵や多くの人々に、その方々に感謝するために祈ります。大和の心にはこの様に記されておられます。大和の精神とはそれらの大きな恩恵に報いるために」と。私たちはそれに従い祈ります。感謝の心をつくります。奉仕の実践です。私たち人間をはじめこの天地自然にある万物一切のものはすべて、宇宙の大元霊の大きな命の元を、みたまをうけて

大和の教信奉者は 五人善導の奉謝行を 実践致します

います。人間は一人では生きていけるものではありません。万物一切を産霊(むすび)だされた神様をはじめ多くの人々やもののおかげによつて生かされ生きています。そういう万の命に対して私たちは祈りを捧げます。大和ですから、この宇宙を調和しなくてはなりません。戦争は人間の浅はかな欲望です。新型コロナウィルス感染症も諸々の利権が絡みます。ロシアはいずれ崩壊するでしょう。過ぎる事は必ず崩れます。日本は成熟した精神を育んでおります。それは家庭の躰です。結び、今から七十七年前日本は焼け野原にされて敗戦となりました。その敗戦の年に生まれた私にどうやって親は食べ物を与えたのでしょうか。何も無いのに与えて下されたから今こうして生かされております。父も母も神様の仕事で、農家でもあ

りませんでした。食糧難の時代、よくこうして命があったと本当に考えます。そういう恩は知っておくべきです。ですから、自分だけの命ではないのです。それを皆さんも知って下さい。心は無量大数です。私たち大和は宇宙の大きな心を与えられております。大和は宇宙の無限大です。ここに『和讃』と書かれております(祈禱殿内の額装)。出雲大社教五代目管長千家達彦先生が開祖様に揮毫して下さりました。大國主大神の御心です。大神は国を立派に平けく治めました。その治められた国を争うこともなく天照大神にお譲り申し上げました。和(やわ)して譲る。譲つて和(やわ)す。大神は共に国造りをした少彦名大神が去り、独りでは国は造れないという不安な時に海から光の玉が現われて、何者だと言くと「我は汝の幸魂奇魂だ」と。だから心配はないと。お一人でも立派に国を造る魂があることを諭され知りました。さあ皆さんと一緒に神話を三度お唱え致します。幸魂奇魂守給幸給(さきみたま くしみたま もりたまえ、さきはえたまえ)皆さんの幸が日本の国を豊かにしてくれます。国家の繁栄は信者の皆さん、国民の繁栄があつて成るものです。その教えが「幸魂奇魂守給幸給」です。本日は大変有難うございました。



あなたの一声が
多くの人を救います
たいわの道
さあ皆さん
たいわの道を歩もうよ
この道は救われる道
この道は幸せへの道
目に見えなくとも
魂と魂のつながり
心に暖かい火を灯しあい
さあ皆さん
たいわの道を歩もうよ

幽顕界の永遠の救いと繁栄を願いて

大和帰神墳墓合祀のご案内

開祖様は昭和四十年代頃に一人のご信者のご縁にて仙台市郷六のみやぎ霊園に永代使用権を求めておられました。東北自動車道の宮城インターチェンジに程近き杜の都を望む緑に抱かれた静閑の地として高く評価されし霊園に五十坪程の墓地を有されております。

此度大神様よりの「我が愛子等に幽顕の永遠の安らぎと幸栄のために御霊等を合せ祀る墳墓を設けるがよし」との大御心を拝し奉りかねて大神様が神伝なされし「前方石塔後円墳」の墳墓を終の棲家として左記の要項にて建立施工させて頂くこととなりました。

教信奉者皆様の先祖故人 前世の御霊等をお祀りなされ天界地底踏破卓立の神身となり幽身となりて幽顕の永遠の幸栄を御神授賜りますようご案内申し上げます。

令和四年七月神教縁日

大和帰神墳墓建立合祀要項

一 場所

みやぎ霊園(西第七区)

仙台市青葉区郷六字大森二、一

一 墳墓の形状

前方石塔後円墳

墳墓の理想は前方後円墳の形状と伝えられておりさらにその象は天之鳥船とも秘されております。本教墳墓の形状は開教神大國主大神が開祖奥都城建立にあたり神伝されし奇毘なる象となっております。

一 墳墓施工期

着工 令和五年五月立夏後

完成 令和五年九月(予定)

一 第一期申込期

令和四年八月一日より十月末日まで

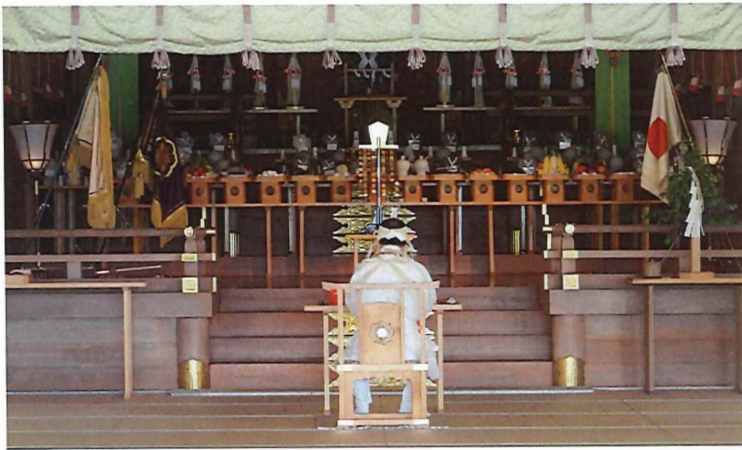
一 埋納方

全ての御遺骨 分骨にての埋納 また 御遺骨に代りての御霊重をもつて埋納させて頂きます。

詳しくは本部または担当教師にお尋ね下さい。

大和神道祓禊祭

大和神道祓禊祭は、参行者自らが神身となり、神に連なり天地一切を清めなす本教一大特殊神事である。



禊祭大神業執行を告げられる斎主教主様

禊祭大神業執行を告げられる斎主教主様
二十一日の本祭は晴天に恵まれ、午前九時半より副斎主副親様以下、祭員、随員は神社大鳥居前に列立、修祓の後、正参道を天地一切清浄大神業の発声唱和のもと参進、御本殿へと入殿、斎主教主様は東回廊よりご入殿をなされた。
儀式に先立ち昨午六月二十二日に帰幽なされし顧問大泉鐵之助先生を偲び奉りて感謝の黙祷が捧げられた。
次に斎主教主様が参行奉告詞を申し上げ、天地一切清浄大神業の祝詞が奏上された。
典儀により火水による天地一切清浄の神事執行が告げられ、祭員、随員、参列者は本宮大広前の斎場へと参進、修祓の後、所役が秘事神法をもつて天地一切清浄火水の神事が行修された。

本年の天地一切清浄大神業の祓禊祭は六月二十四日執行の大國神社鎮座御神像境内社御清之儀より始まり、各分祠教会信者宅にご奉斎申されし御神像が大國神社御本殿に奉安された。
六月二十四日午前十時より、斎主副親様のもと御清之儀が執り行われ、大海原綿津見之御神水と天真名井之御神水にて各御神像、殿内、境内摂社末社のお清めがなされた。
引き続き十一時より、御神前に海川山野の種々の御饗津物が宇豆高く供えられ、還幸祭が副親様の斎主にて肅々と斎行された。
二十五日、午前十時より前日祭が



大鳥居前より御本殿へと参進



御本殿にて一同祈念を申し上げた



副親様による五段大祓之神事 太刀之祓執行

同時に熊笹束を奉持した随員により大海原の綿津見之御神水、天真名井の御神水にて参行者参列者の身魂が清められ、教主様による、第五神界秘言により更なるお清めがなされた。
次に大御神柱を真中に大円陣をつ



神人和楽のおはやし行事が執り行われた

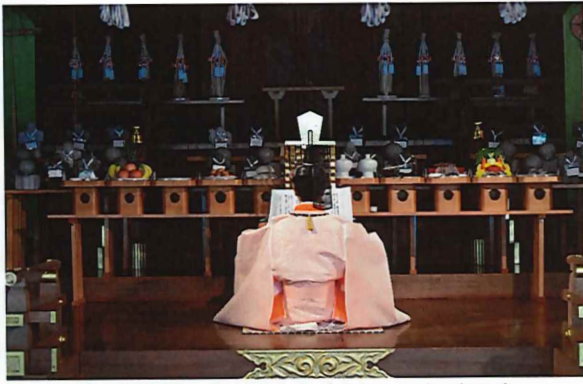


儀式後、盛大に散銭散餅の儀が執り行われた

くりにて、田中道敏教師が先達となり天之鳥船神事が執行された。随員参列者を始め代参参行者、幽界よりの霊神参行者が神身となり幽界となりて、大神業をお仕え申し上げた。
次に神人和楽おはやし行事では大御神柱と火壇を祈念しながら三度廻り、再び御本殿へと復し教主様により大神業執行仕え終え奉る旨が祈念され斎主教主様を始め代表者による玉串が捧げられた。
次に昇神昇霊の儀がなされ分霊御



大國主大神御神像御清之儀 (6.24)



斎主副親様のもと還幸祭が斎行された (6.24)

神像の帰還奉告詞の祈りがなされた。教主様の御親教では、祓禊祭の尊さと大物生大神の尊き御神徳が説かれ、大和神道の奥義を賜った。
結びに散餅散銭の儀が御神柱大前にて行われ、参行者は尊き神々の紅白餅、福銭を拝受申し上げ、天地一切清浄大神業の祓禊祭神事一切が修められた。
此度大國神社に還幸されし分祠教会篤信者の御分霊御神像は帰還なされ、これよりの一年間、新めての大神のご神護を乞ひ祈り申し上げた。

開運御神水 御水取之儀

六月十六日午前一時、大國神社御本殿大前において、斎主副親様のもと綿津見之御神水御水取之儀出立奉告祭が申し修められ、奉仕者一同は満潮を迎えんとする七ヶ浜町の小豆浜を目指した。



小豆浜にて開運御神水お水取之儀



オカトラノオ 7月中旬～8月下旬

雨模様砂浜にて結界が張られた祭壇に饗が供せられ、先達副親様のもと祝詞が奏上された。
一同、輪となつて天之鳥船神事を修めた後、午前二時半より御海水取が執行され、肅々と御海水を御汲み申し上げた。

山野草公園手記

日当たりの良い草地に生える多年草。花序を虎の尾に見立てたのが名前の由来。花言葉は「忠実」

大泉鐵之助先生を偲びて 哀悼の祈りを捧ぐ



本教顧問であられた大泉鐵之助先生が、令和三年六月二十二日に、
齢八十歳のご生涯にて帰幽されて
より一年をお迎えになられた。
翌六月二十三日、嗣親様と平松

総長が、ご自宅を弔問なされ弔意
を表された。

嗣親様の先達にて、開祖様を本
当の母親の様に慕われ、本教の顧
問として多岐に亘り永年護持伸展
にお尽くして下された大泉先生の
ご遺徳、ご功績を偲び、哀悼の意
を表して祈りを捧げられた。

また、六月二十六日の祝祭本祭
に先立ち、教主様が顧問大泉鐵
之助先生の帰幽なされしことを参
列者に改めて申し上げ、生前の本
教団への貢献に感謝の黙祷が捧げ
られた。

新宗連理事長 大慧會教団会長 石倉寿一先生 大市神山参詣

七月七日午前十時、公益財団法人
新日本宗教団体連合会(新宗連)理
事長で大慧會教団(本部・大阪府堺
市)会長の石倉寿一先生が、新宗連
大滝晃史事務局長を伴われ大國神
社を表敬参詣なされた。

到着後、始めに開祖様の奥都城を
お詣りなされた両氏は、引き続き御
本殿にて正式参拝を申し修められた。
石倉先生は六月二十七日に、新宗
連の第九代理事長に就任なされ、同
じく第七代理事長であられた教主様
にご挨拶を申し上げるべく、ご来山を
下された。また、石倉先生は教主様
が理事長時代に常務理事となられ、

故半澤 令大刀自之命埋葬祭



玉串を捧げられる教主様と教母様

六月十六日午後三時仙台市青葉
区のみやぎ霊園大和墓苑において、
故半澤令大刀自之命埋葬祭が斎主

嗣親様のもとしめやかに斎行され
た。

故半澤令様は、教主様の大恩あ
る恩師、故半澤義巳先生のご令室
であり、半澤先生共々に公私共大
変にお世話になりし方である。

祭儀は修祓の後、埋葬祭が斎行
され、ご遺族の手によりご遺骨が
奥都城の後方に設けられた墳墓に
丁寧に埋納された。

斎主嗣親様により埋葬祭詞が厳
かに奏上され、斎主玉串捧礼、御
遺族玉串捧礼、教主様・教母様玉
串捧礼をもって修祭となった。

儀式後に教主様より、前方石塔
後円墳をつくるまでの経緯や、故
人との思い出話を交えてのお言
葉を賜わり、一同は大國神社へと
移動した。

到着後、御本殿を参拝の後、祖
霊殿御霊舎にて故半澤義巳先生、
令様、ご長男貴司様の御霊の御
前を参拝申し上げ、祈禱殿控室に
て教主様、教母様、嗣親様と共に
暫し歓談をなされ、故人を偲ばれ
た。

御遺族の熊野鐵夫氏は令様の一
番下の弟さんで、ご家族皆様で青
森の三沢より参列下された。

また、半澤義巳先生は東北学院
榴ヶ岡高等学校の校長をおつとめ
され、東北合気連盟の組織をつく
られた先生である。

教主様は高校時代より終生お仕
え申し上げた大恩人であり、奥様
のおこころを拝し奉りて大和墓苑
に終の棲家を建墓させて頂いたこ
とを申し添えさせて頂きます。



御本殿廣前にて記念撮影

教主様の会の運営に深き学びを賜り
しことをもっての感謝のご挨拶の強
き思いにての来社でもあられた。
正式参拝の後、祈禱殿特別室にお
いて教主様(新宗連顧問)、嗣親様
(同理事)、平松総長(同評議員)
を交えて、暫し親しく歓談をなされ
一同大変意義のあるひと時を過ごさ
せて頂いた。

金剛蔵王大神 奉鎮座三年祭



悪魔降伏の神・金剛蔵王大神

大國神社に金剛蔵王大神御神像が
建立、ご鎮座されてより三年を経た
六月三十日午前九時、斎主嗣親様の
もと奉鎮座三年祭を斎行、御神像大
前にて、晴れ渡る好天のもと儀式は
肅々と進められた。



斎主嗣親様による祝詞奏上

御神像大前には海川山野の神饌が
献じられ、斎主嗣親様が祝詞を奏上
斎主玉串捧礼の後、参列者が順に玉
串を奉献申し上げた。

鈴木絵美教師 巫女修行入行



嗣親様により巫女修行入行の心得が説かれた

金剛蔵王大神様には、年月を経る
毎に威を増し、今後も更に力強く私
たち教信奉者を御守護下さいますこ
とをご祈念申し上げます。

8月行事予定表

- | | |
|-------|-------------------------------------|
| 8月1日 | 月始祈願祭 |
| 8月5日 | 神光龍神祭 |
| 8月7日 | 七夕祭 |
| 8月11日 | 親神感謝祭・祖霊万靈祭
出羽三山下山感謝奉告祭 |
| 8月13日 | 盂蘭盆祖霊殿御霊祭
お盆花供養慰霊祭
日蓮宗関縁浄霊安鎮祭 |
| 8月15日 | 月次祭 |
| 8月25日 | 神子祈願祭
大和地蔵慰霊祭 |
| 8月27日 | 開祖祭 |
| 8月28日 | 六根修養会
理事会・後期総合役員会
教主様特別講演会 |

9月行事予定表

- | | |
|-------|--|
| 9月1日 | 月始祈願祭 |
| 9月5日 | 神光龍神祭 |
| 9月11日 | 親神感謝祭・祖霊万靈祭
延命長寿祈願祭
敬老祝賀会 |
| 9月15日 | 月次祭 |
| 9月18日 | 神子祈願祭
大和地蔵慰霊祭
金剛蔵王大神年祭 |
| 9月24日 | 故保祖敬一郎之命七十二年祭
故保祖敬一之命七十二年祭
万燈恩霊祭 |
| 9月25日 | 六根大行(25日) |
| 9月28日 | 開祖祭
六根修養会 |

七月一日、月始祈願祭の後、御本
殿大前にて上山遥拝所所属の鈴木絵
美教師の巫女修行入行始奉告祭が、
斎主嗣親様のもと斎行された。
儀式後、嗣親様より、巫女修行入
行許可書が授けられ、激励のお言葉
が述べられた。
これよりの七月、八月と大市神山
に参籠なし、俗世と絶縁し霊能啓発
神業を始めて祭作法、大和教学の
修学を通し、人格・霊格の向上を目
指しての日々の厳しき修行が始めら
れる。成満を祈るものである。